

那須野が原博物館 中期目標項目・評価シート
第1期(平成24～28年度)

平成28年度

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	第1期目標値(5年累積/平均)	第1期実績(累積/平均)	28年度目標値	28年度実績	備考	
1. 資料の収集と保存・活用								
1-1 資料の収集	収集方針をもとに寄贈・購入・採集を通して積極的かつ継続的に収集します。	収蔵資料総件数	65,047件	78,335件	65,047件	78,335件	H29.3.31現在 歴史18,652件、民俗 5,532件、考古4,284 件、美術3,715件、文学 45件、地質616件、植 物5,030件、動物40,501 件 合計78,375件	
		新規収集資 料件数	歴史(寄贈を除く)	65件	599件	13件	71件	塩原温泉資料ほか
			民俗(寄贈を除く)	0件	41件	0件	29件	はたき ほか
			考古(寄贈を除く)	0件	0件	0件	0件	
			美術(寄贈を除く)	91件	23件	18件	4件	錦絵ほか
			文学(寄贈を除く)	25件	6件	5件	1件	忘春詩集
			地学(寄贈を除く)	150件	115件	30件	21件	三葉虫ほか
			植物(寄贈を除く)	250件	0件	50件	0件	
			昆虫(寄贈を除く)	1,500件	739件	300件	386件	採集386件
			動物(寄贈を除く)	35件	43件	7件	12件	購入3件(哺乳類、甲殻 類)、採集9件
			寄贈他(全分野)	—	13,366件	—	3,803件	歴史137件、民俗277 件、美術137件、昆虫 3,168件、植物84件
		合計	2,116件	15,097件	423件	4,327件		
		収蔵図書総件数	12,482件	16,250件	12,482件	16,250件		
		新規収集図 書件数	購入	150件	175件	30件	47件	
寄贈・その他	—		3,762件	—	1,542件			
1-2 資料情報の公開	収蔵資料データベースの公開を行い、研究者等による利用を促進します。	収蔵資料情報公開件数	10,000件	23,431件	2,000件	7,717件	歴史265件 考古4,284件 昆虫3,168件(s-net)	
1-3 資料の適切な管理	必要な収蔵スペースを確保するとともに、収蔵庫・展示室を良好な環境に保ち、燻蒸により資料の安全な保存を図ります。	燻蒸回数	那須野が原博物館	5回	5回	1回	1回	
			附属施設	5回	5回	各1回	1回	黒磯郷土館(展示施設 1回)
	収蔵庫の増設						27年度設計 30年度本体工事 予定	
	資料の修復	歴史資料	50件	28件	10件	5件		
		考古資料	25件	16件	5件	3件		
美術資料		5件	21件	1件	0件			
美術資料(ブロンズ化)		3件	4件	1件	1件	《鎌研ぐ男》		
		常設展示	1.0%	1.4%	1.0%	1.4%	展示件数合計/総収 蔵件数	

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	第1期目標値(5年累積/平均)	第1期実績(累積/平均)	28年度目標値	28年度実績	備考	
1-4 資料の活用	常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。	展示利用率	企画展示	5.0%	2.0%	5.0%	2.0%	Σ [(展示件数÷該当分野収蔵件数)×100]÷展示回数
			トピックス展他	1.0%	0.6%	1.0%	0.6%	Σ [(展示件数÷該当分野収蔵件数)×100]÷展示回数
			黒磯郷土館	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	展示件数÷収蔵件数
			日新の館	0.5%	0.4%	0.5%	0.4%	Σ [(展示件数÷該当分野収蔵件数)×100]÷展示回数
		関谷郷土資料館	1.2%	1.1%	1.2%	1.1%	展示件数÷収蔵件数	
	収蔵資料を他の博物館・美術館等へ貸し出します。	貸出回数	—	34回	—	6回	式年遷宮記念神宮美術館、栃木県立博物館(2回)、小山市立博物館(2回)、大田原市歴史民俗資料館	
【特記事項】	特別展・企画展展示資料として、塩原温泉関係資料や化石等を重点的に購入した。平成28年2月及び11月に現代美術家の三木俊治氏から寄贈を受けた現代美術作品及び関連資料(計68点)の登録が完了した。資料の公開については、考古資料全件(4,284件)の情報を公開した。							
【課題・改善点等】	資料の収集は、採集・購入・寄贈等により継続的に実施している。新収蔵庫の建設については現在、実施時期は未定となっている。すでに、収蔵スペースが大幅に不足しており、資料の安全な保管環境が確保できない状況が続いていることから、早急に建設に着手できるよう要望していきたい。							
【外部評価委員 所見】	中期目標はほぼ達成されており、今後も積極的かつ継続的に収集されたい。資料の収集活動とその保存及び活用は、博物館の使命と考える。しかし、収集された資料が収蔵庫のスペース不足により、適切な保存が難しい状況にあることは大変危惧する。昨年度の評価でも指摘しており、早急な対応を望むものである。寄贈資料の中に多くの昆虫標本があるが、貴重な資料が後世に伝えられるようお願いしたい。収蔵資料のデータベース化は、資料の保存とともに公開化において大変大切なことである。限られた人数の中であるが、博物館活動において継続して収集活動を行うことは重要なことである。							
2. 調査研究								
2-1 調査研究活動の推進	那須野が原およびその周辺に関する調査研究、並びに博物館学的調査研究を積極的に行います。	那須野が原博物館紀要掲載論文の件数	25件	31件	5件	7件		
2-2 地域研究者等との協働による調査研究の推進	地域研究者を客員研究員に委嘱し、幅広い分野から調査研究を行います。	客員研究員数	10人	1人	2人	0人		
		地域研究者数	15人	14人	5人	5人		
【特記事項】	那須を継る事業は、第4期の2か年事業(27年度・28年度)として実施。客員研究員の制度は廃止とし、地域研究者に紀要への投稿を呼びかけてそれを支援する体制に移行した。							
【課題・改善点等】	紀要は調査研究成果の公表のために、毎年1回継続して発行する。那須塩原市で実施している動植物実態調査や地域研究者等と連携・協働を図り、地域の解明に努めていきたい。年度によって投稿件数に差が出てしまうので、報文の受付方法や予算の獲得などが課題である。							
【外部評価委員 所見】	那須野が原博物館で毎年発行している紀要は、那須地域で行われている調査・研究を発表する場として重要なもので、今後も継続されていくことを望む。また、博物館において発行される自然系の図鑑や人文系の図録は、特別展を補助し後世へ残す意味からも評価できる。図鑑である『塩原の自然』が再版され、地域の活性化に寄与していることも見逃せない。							
3. 展示								
3-1 企画展示の開催	収蔵資料の有効活用を図るとともに、地域または各分野のテーマを深く理解するため、企画展示等を開催します。	企画展示の開催回数	25回	22回	5回	5回	うち1回はH27年度から継続	
		企画展示の観覧者数(学校を除く)	66,600人 (H28年度16,000人)	70,527人	13,629人	19,661人	目標値:過去5か年のうち最多・最少を除く3か年の平均×1.1	

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	第1期目標値(5年累積/平均)	第1期実績(累積/平均)	28年度目標値	28年度実績	備考
		観覧者の満足度(平均)	90%	91%	90%	92%	5段階評価のうち、上位2位の合計
3-2 企画展示の理解促進	図録の発行、記念講演会・展示解説等の開催により、観覧者が展示内容を理解しやすいようにします。	図録の発行件数	5件	6件	1件	1件	『塩原温泉ストーリー』
		関連事業の参加率	70%	68%	60%	79%	三木69%、ホネ84%、塩原94%、昭和103%、版画43%
		参加者の満足度(平均)	90%	96%	90%	99%	三木100%、ホネ97%、100%、昭和-、版画100%
3-3 常設展示の充実	常設展示の充実を図ります。						
	開館10周年に展示リニューアルを行います。					実施済み	平成25年度
【特記事項】	5回の企画展示(特別展:「ホネ博2016」・「塩原温泉ストーリー」、企画展:「昭和のくらし探検隊!」・「版画、いろいろ」、「三木俊治のまなざし(27年度から継続)」)を開催。H28年度観覧者総数:23,928人(うち学校見学4,267人)・利用者数36,313人。企画展示観覧者数目標値(中期計画5か年合計66,600人・学校を除く)を3,927人上回った。						
【課題・改善点等】	特別展「ホネ博2016」は脊椎動物の骨格をテーマにライフスタイルごとに分けて展示した。特に展示観覧用冊子やクイズが好評であった。「塩原温泉ストーリー」は近代の塩原温泉をテーマに展示した。図録は地域の反響が大きく、関連事業への参加率も高かった。企画展「昭和のくらし探検隊!」は昭和30年代を中心にくらしの様子をジオラマなどで紹介した。今後は時期やテーマを変えて開催し観覧者の動向を見極めたい。「版画、いろいろ」は当館所蔵の様々なジャンルの版画を紹介した。企画展示の広報戦略として報道各社の後援やプレスリリースが効果的で掲載回数も多かった。また、チラシを広域に配布し事業の周知に努めた。今後の課題としては、資料の取り扱い方法の指導徹底、職員相互の意見交換による内容の精査、及び成人に向けた広報手段の確立などが挙げられる。						
【外部評価委員 所見】	特別展・企画展ともに見学者に対して関心を喚起する工夫がされた展示であった。特に、「ホネ博2016」と「塩原温泉ストーリー」は、印象に残り、観覧者も多く好評であった。これからも現代を生きる私たちにとってどのような意味を持つのかを問いつつ、分りやすく展示することが大切である。展示構成は、資料を精選し市民目線に立ったものとし、併せて広報に対して心掛けていただきたい。それとともに、参加・体験型展示の充実を期待したい。						
4. 教室講座							
4-1 教室の実施	子ども・親子を対象に各種教室を開催し、体験を通じた学習活動を展開します。	参加率	90%	93%	85%	97%	土器60%、昆虫87%、化石91%、科学68%、はたおり100%
		参加者の満足度(平均)	90%	98%	90%	98%	土器78%、昆虫100%、化石96%、科学100%、はたおり100%
4-2 講座の実施	一般を対象に講座を開催し、地域の自然・文化に対する認識を深めます。	参加率	70%	58%	60%	50%	セミナー50% 自然講座49%
		参加者の満足度(平均)	90%	92%	90%	100%	セミナー100% 自然講座100%
4-3 博物館フェスタの実施	博物館をより身近に感じていただくために博物館フェスタを開催します。	来館者数(延べ)	1,200人	1,180人	1,200人	約1,500人	
		参加者の満足度(平均)	90%	93%	90%	73%	
4-4 親子体験チャレンジの実施	創作活動を通じて、昔のくらしや自然科学への理解を促進します。	参加率	70%	79%	60%	90%	20回実施
		参加者の満足度(平均)	90%	90%	90%	84%	20回平均
4-5 各種普及事業の実施	シンポジウムや研究発表会を開催し、市民とともにこれからの地域のあり方を探ります。	参加率	70%	70%	60%	71%	研究発表会70%、なはくAP72%
		参加者の満足度(平均)	90%	93%	90%	87%	研究発表会79%、なはくAP94%
4-6 生涯学習活動の支援	質問や相談等に対応し、市民の生涯学習に寄与します。	レファレンス件数	100件	154件	20件	62件	同定依頼、地域史、収蔵資料等
【特記事項】	講座は一般を対象に「那須自然・文化セミナー」(5回)・「那須塩原自然講座「自然のここがおもしろい!」」(3回)を開催。子ども・親子対象の教室として、「子ども土器づくり教室」(4回)・「親子昆虫教室」(3回)・「化石発掘隊」(3回)・「夏休みこども科学教室」(3回)・「子どもはたおり教室」(2回)の5コースを実施。その他に「親子体験チャレンジ」(20回)・「なはくアートプロジェクト」(6回)・博物館フェスタ等を開催した。						

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	第1期目標値(5年累積/平均)	第1期実績(累積/平均)	28年度目標値	28年度実績	備考
【課題・改善点等】	子ども対象の教室は、土器づくり教室・科学教室の参加率が低かった。日程やテーマの設定に改善を要する。講座は2コース共に参加率が低迷している。講座形式にこだわらず見学会など様々な形式を織り交ぜ魅力の向上に努めたい。博物館フェスタはチャレンジの実施方法の変更や屋外スペースの活用を図った。スタッフの負担や安全対策等の改善を図りたい。親子体験チャレンジは人気のメニューを2回実施するなどの改善を行い、一定の成果が得られた。メニューの設定は難易度を考慮し十分な検討が必要である。「なはくアートプロジェクト」は、外部講師を招聘した事業の参加率が高い傾向が見られた。次年度は外部講師による事業に絞って実施したい。						
【外部評価委員 所見】	現在の限られたスタッフ員数の厳しい条件の下で、数多くの多様な教室講座を開催している現状は評価に値するものである。セミナー・自然講座の低迷は参加者の固定化が一因であり、新たな参加者を呼び込む工夫が必要と思われる。一案として、博物館入り口の外部周辺の目につきやすい箇所に催し物案内板設置の検討を提案したい。						
5. 地域との連携		那須野が原					
5-1 各種機関等との連携・協力	各種機関等と連携を図り、広範囲な活動を展開します。	連携事業件数	20件	18件	4件	3件	ビクター展示、フイマ、コンサート
	文化・自然に関する活動に対し、学術的な協力を行います。	協力件数	30件	44件	6件	10件	市生涯学習課、市環境管理課2名、栃木県(文化財、文化功労者選考、レッドデータブック2名)、鹿沼市、大田原市、那珂川町
5-2 学校教育との連携	学校による見学・体験学習の充実を図るとともに、収蔵資料の貸出し・出張授業等により学校教育の支援を行います。	学校来館数(那須野が原博物館)	500校	543校	100校	97校	
		学校来館数(黒磯郷土館)	25校	57校	5校	16校	幼稚園他団体3件含む
		資料貸出件数	75件	136件	15件	20件	ビデオ10件、民具4件、開拓5件、その他1件
		出張授業件数	50件	28件	10件	7件	開こん記念祭(うち1件チャレンジボランティア)
5-3 実習等の受け入れ	博物館実習や生徒の職場体験等を受け入れます。	博物館実習・職場体験件数	50人	53人	10人	10人	博物館実習5人 マイチャレンジ5人
5-4 市民との協働	「那須を綴る」事業により、市民による調査・公開・編纂を進めます。		3回	3回	1回	1回	1回/2年
	団体・研究者等との協働により、資料や情報の収集を図ります。						
	ボランティア活動を支援し、市民による教育普及活動を促進します。						
【特記事項】	<p>《市民、自主団体による教育普及活動への支援内容》</p> <p>石ぐら会「那須野が原入門講座」、いろりの会「昔のおもちゃづくり」、那須文化研究会「講演会」、那須野が原の自然調査会「一般向け観察会」・「ギャラリー展」、西那須野土器づくりの会「一般向け土器づくり教室」、語り部炬燵「民話語り」、ミュージアムフレンズなすの「学習会」、ジュニア生き物クラブの活動等</p>						
【課題・改善点等】	学校見学については、昨年と比べ10月～12月の4年生の人数が減少した。今後の学校の動向を注視していく。また、出張授業は、ホームページに支援内容を紹介するなど広報を充実させ、利用促進に努める。						
【外部評価委員 所見】	幼児からシニアまで世代を問わず学びや体験など様々な活動の場として利用できる施設として存在価値は高く、各種機関や学校等との連携も活発に行われている。ただ、出張授業は開こん記念祭において石ぐら会が学校を訪問した件数しかなく、出張授業件数の伸び悩みが感じられる。実際の授業内容に関わるような連携が望まれる。また、ホームページ等の情報発信のほか、出張授業の具体的なメニューを示すことも必要と思われる。これを、校長会や担当者会で博物館から説明をしたり、学校訪問を通してどのような連携ができるのかを資料をもとに説明し、理解してもらうことも大事である。また、黒磯郷土館における学校等の利用が伸びていることは喜ばしいことである。津久井家住宅を基にした体験学習は効果があるものと思われる。現在、学習ニーズや活動に対するニーズが多岐にわたっており、博物館への期待も大きい。引き続き地域との関わりを重視し、連携強化に努められたい。						
6. 施設整備							
6-1 施設の維持管理	施設を安全かつ快適な環境に保ち、資料の適切な保管環境を整えます。	施設の清掃、空調設備のメンテナンス及び更新					
6-2 危機管理体制の強化	自然災害や火災・盗難・事故等に備え、防災意識の向上と危機管理体制	防災訓練の実施回数	10回	10回	2回	2回	

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	第1期目標値(5年累積/平均)	第1期実績(累積/平均)	28年度目標値	28年度実績	備考
0-2 危機管理体制の強化	危機意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。	危機管理体制の整備状況					
6-3 附属施設活動の充実	附属施設(黒磯郷土館・日新の館・関谷郷土資料館)の特徴を活かした活動を展開します。	黒磯郷土館来館者数	1,800人	2,315人	1,800人	2,237人	
		黒磯郷土館来館者の満足度(平均)	90%	90%	90%	%	回収なし
		日新の館来館者数	1,500人	1,360人	1,500人	947人	
		日新の館企画展の開催回数	25回	25回	5回	5回	霧庄展、風景展、北山展、画家展、寿ぎの春展
		日新の館来館者の満足度(平均)	90%	87%	90%	82%	
		関谷郷土資料館来館者数	14,000人	12,147人	14,000人	13,219人	
		関谷郷土資料館来館者の満足度	90%	—%	90%	%	回収なし
【特記事項】	黒磯郷土館は旧津久井家住宅内の資料整理を行った。日新の館は過去5年のピーク時と比較すると3年間で来館者が約半数に減っている。関谷郷土資料館は市観光局がオープンしたため平成27年以降から回復傾向が続いており、前年度と比較すると伸び率は若干下がったものの1,000人近い増加があった。						
【課題・改善点等】	防災訓練の実施方法などを検討し、危機管理体制の強化および救命講習の実施による職員育成を図る必要がある。日新の館の来館者が減少している要因の一つに自然展示室の閉鎖が挙げられる。新収蔵庫建設までの一時的な資料の保管場所としているが、館の運営に支障をきたしている。長期的な保管環境としても相応しくないため、早急な対応が必要である。						
【外部評価委員 所見】	那須野が原博物館及び附属施設である黒磯郷土館・日新の館・関谷郷土資料館が、地域の歴史や文化及び自然等を扱う中で、その機能を十分果たしているかは疑問である。前年度の評価をみると改善された点が多々見受けられるが、施設の危機管理体制や施設の活動状況において差が大きく見られた。附属施設においては、防災訓練の実施や来館者の満足度を上げることについて、改善に取り組んでほしい。						
7. 組織人員							
7-1 効率的な組織運営	情報の共有化や事務事業の分担を促進し、効率的な運営に努力します。						
7-2 意識改革と資質の向上	職員全員が当館の使命及び目標を認識するとともに、能力開発・資質向上に努めます。						研修参加：日博協2名、栃博協2名、専門研修1名
7-3 効果的な広報体制	各種メディア等への情報提供を積極的に行います。また、ホームページを充実し、認知度の向上を図ります。	マスコミ・メディア等の掲載回数	100回	212回	20回	31回	新聞21回、情報誌4回、ラジオ3回、テレビ3回
		ホームページの閲覧回数	300,000回	493,758回	60,000回	132,729回	ページビュー数
		ホームページの更新回数	240回	337回	48回	47回	
【特記事項】	各メディアへの情報提供は積極的に行っている。ホームページの更新に加えて、ソーシャルメディア(Facebook)を活用して効果的・効率的な情報発信を行っている。閲覧回数は前年度に比べ約3割増加した。長年の課題であった人文分野の学芸員がH29年4月に新規採用された。						
【課題・改善点等】	人文分野の学芸員が新規採用されたため、那須野が原の開拓に関するこれまでの研究成果を確実に引継ぎ、事業を継続していくことが必要である。						
【外部評価委員 所見】	日常業務の負荷が高まり、全体的に疲労度が増しているように感じられる。学芸員並びに事務職員の定数において、まったく少ないといわざるを得ないが、さらなる業務の効率化を図る中で、業務上の体力を維持し、能力開発や資質向上に努められたい。広報活動については、常に時代に沿った効果的な方法で情報を発信され評価できるものである。今後の幅広い市民サービスの向上に努められたい。						

【外部評価委員 総合所見・指摘事項】

各項目とも、平成28年度及び第一期(平成24～28年度)目標は、ほぼ達成できたものと評価できる。

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	第1期目標値(5年累積/平均)	第1期実績(累積/平均)	28年度目標値	28年度実績	備考
<p>那須野が原博物館の資料の収集と保存・活用においては、収集において分野により達成されていないものもあるが、金額による数量の減少であり、相対的に見れば寄贈も含めて、目標を超えており、収集すべき資料の収集を行っている結果と判断する。調査・研究においては、今年度も含めて「那須野が原博物館紀要」を継続的に発行していることは、重要ことであると感じている。地域に対して、資料の記録化や博物館活動を公開していくという観点からも、継続を願うところである。教育普及活動においては、展示において自然・人文分野の特色をとらえた企画展示も好評であったと思われる。展示は、博物館活動の柱であるため、今後の各分野の企画に期待するところである。また、教室講座においては、一般向けの講座や地域研究発表会において、参加率の低さが懸念される。講座内容の工夫や広報について改善していただきたい。さらに、児童・生徒数の減少に伴う利用率の低下も、地域連携や博学連携に取り組んでいる当館としては、大きな課題である。附属施設の問題においては、施設においては利用者の低迷が続いている。施設利用者の動向を分析して、展示内容の改善・工夫を行うこととや施設の改善が必要ではないか。</p> <p>当博物館では、地域に開かれた博物館として、数多くの展示・教室講座等を設けている。平成28年度も地域の理解が浸透し成果を上げたが、その反面学芸員や職員の多忙感が高まっているように感じる。那須塩原市の自然環境・文化行政の最前線に立つ博物館として、市民サービスの向上を図る意味からも、仕事量の軽減や業務の改善・工夫に努められたい。現在、世代継承が難しくなっている中で、那須野が原の風土に育まれた地域文化遺産が消滅する危機が高まっている。資料の収集と保存・活用は、博物館活動の根幹に関わる分野である。今後、計画的な収集方針を持っていながら、収容能力不足のために貴重な地域文化遺産の収集・保存ができないならば、市の文化行政の在り方が問われることになる。計画された収蔵庫増設については、早急に実現していただきたい。</p>							
<p>【博物館の対応】</p> <p>那須野が原博物館においても、平成28年度の評価及び第一期(平成24～28年度)の評価において、ほぼ目標を達成できたものと認識している。ただ、個々にみて行くと一部達成されていない点があるのも事実である。資料の収集と保存・活用については、今年度及び第一期において、目標を上回る資料の収集があったが、寄贈資料において、外部評価の総合所見にも述べられているように、世代継承が難しくなっている現在、資料の散逸を防ぐ意味からも、博物館の存在は大きいといえる。ただ、収集に当たっては収集基準に則り、精選もしつつ収集することになる。一方で、現在収蔵庫が飽和状態となっている。新収蔵庫の設計は完了しており、早急なる収蔵庫の建設を要望していきたい。ここには資料の収蔵だけでなく、什器等の保管も含めて、スペースが足りず、博物館活動全体において支障が出はじめている。調査・研究においては、紀要の発行を継続的におこなうことで、資料の記録化の継続を図って行くことが重要と考えている。ただ、本来ならば自然・人文共に地域の総合調査を行わなければならないが、職員体制の面で、組織化を図ることができないのが現状である。市民に直接的に関わる教育普及事業においては、事業ごとにアンケートを取り、その事業の評価と問題点を抽出し、「事業別内部評価票」に作成し、さらに、この評価シートに反映している。展示事業においては、企画展の観覧者数は目標値を超えているが、今後もテーマの設定や展示内容の精査・市民ニーズを捉えながら開催していきたい。教室・講座等の事業においては、子ども向けの教室は、体験・実験・観察を取り入れての事業展開であり、多くの申し込みがあり評価されているが、一般向けの講座等では受講生が少ない。他の施設での開催も含め多様化していることも確かであるが、座学だけでなく事業の工夫や広報にも心掛けて行きたい。博物館は市民との協働を推進しているが、行政の補完であってはならないと考える。業務の改善・工夫で乗り切っていくほかに、今後限界が来るであろう。また、今後附属施設の在り方については検討を要する。各附属施設が立地している環境や設置目的等を考慮し、関係機関と調整を図りながら、より良い方向を見出して行きたい。</p> <p>博物館は、資料の収集・保存・調査・研究・教育普及活動と幅広い活動領域で、市民の皆様目に触れない部分も多く存在する。そのためにも、この博物館評価を実施することで、少しでも理解が図れるようにするとともに、市民との協働を標榜する博物館として、情報の共有を図る目的もある。今年度で、博物館評価の第一期も終了し、平成29年度からは第二期目に入る。</p>							

外部評価委員	
平成29年度那須塩原市那須野が原博物館協議会委員	
福崎 政弘	大塚 好一
高根沢広之	笹沼 恭欣
木村 康夫	川島 勝子
若月 延雄	松村 雄
千葉 昭彦	君島 章男